



# マジックミリオンズセールの話から

## View from Down Under

ハイランド真理子

昨年は、E I (馬インフルエンザ)のために、恒例の1月開催ができなかったマジックミリオンズセールだったが、今年は無事実施された。無事と言っても、E Iの影響は依然として色濃く、検疫協定などが手間取っていて、まだ日本からのシャトルスタリオンも競走馬もオーストラリアに直接入国させることができない。私は、7月のセレクトセールに、オーストラリアからバイヤーを連れていく予定であるが、そこで購入した馬をオーストラリアに直接輸送することができないとすれば、バイヤーの気をそいでしまうかも知れない。それならば外国人馬主として登録して、日本で走らせればいいではないかという声もある。しかし、それにしておざなりな外国人馬主の条件設定で、本当に来て欲しいのかどうか本音が分からない。というのは、私が言っているだけでなく、今回、マジックミリオンズのセリで会ったアジアからのバイヤーの声も同じ。

全世界に今も影を落としている金融危機。ホリデーのメッカ、ゴールドコーストでどれ位その金融危機の影響が出ているのか私自身も興味があった。ところが、ホテルは満室だし、レストランも予約を取るのが大変なほどリゾートは盛況。実際、オーストラリアでは、クリスマス商戦も、昨年より売り上げが増えた企業が多く、自動車業界はともかく、オーストラリア全体では、金融危機の影響はまだ、ということだろうか。それでは競走馬の世界はどうだろうか？ 昨年1900万ドルを使ったネイサン・ティンクラー氏は、鉱山株が下がっている中で、今年は買うのだろうか。オーストラリア中の生産者が息を呑んで今回のマジックミリオンズセールの結果を見つめていた。

結果は、1-4セッションは、上場頭数が210頭も少なかったため、総売り上げで38.5%もの大幅減にはなったものの、売却率は昨年の82.5%から80.1%と僅かな減少だった。しかも、5セッション目は、昨年の平均価格を18%も上回り、売却率も昨年の78%から82%と増えたので、マジックミリオンズの関係者だけでなく、生産界をホッとさせた。この不景気の時代に上々な結果といえる。昨年の最高価格は、パティナ

ックファームが落札した220万ドルだったが、今年では、ゲイ・ウォーターハウス調教師の200万ドルだった。また、平均価格の13万1632ドルは、昨年と比べ16.33%の減少だった。

### 目立った外国人バイヤー

このセールのセレクトセッション(1-4セッション)でのリーディングバイヤーは、ゲイ・ウォーターハウス調教師。28頭落札して、703万ドルを使った。この買い物には、前述した最高価格200万ドルのエンコスタデラゴの牡馬と、100万ドルのリダウツチョイスの牡馬が含まれている。エンコスタデラゴの牡馬は、2005/06シーズンの3歳チャンピオン馬レーシングトゥウインの兄弟で、リダウツチョイスの牡馬は、ストロベリーロードを母の父に持ち、兄弟も手堅く走っている牡馬。これらは、彼女が得意の、2歳で成功させて3歳には種牡馬、という道を辿るのかも知れない。

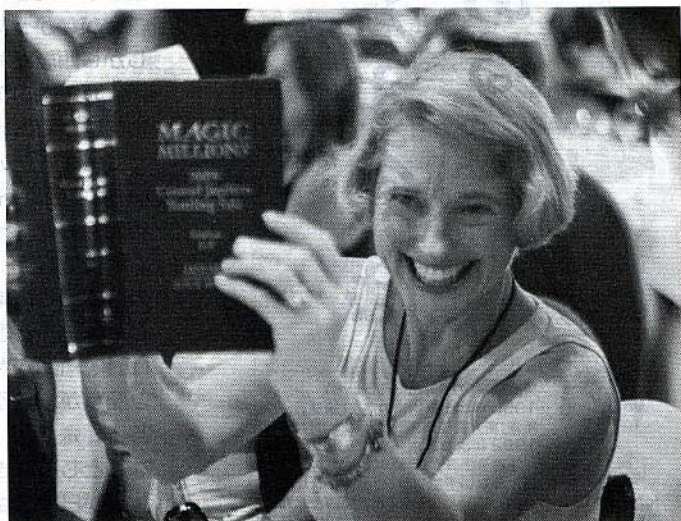
リーディングバイヤーの2位には、香港ジョッキークラブが入った。19頭を341万ドルで落札した。ところで、トップバイヤーのリストの6位に、アイルランドのBBAとシンガポールで船舶業を営むオング・チョン・セン氏が入っている。シンガポールは、これまでマジックミリオンズの安いセッションには来ていたが、高い方のセレクトセッションで買ったのは初めてである。アイルランドのBBAは、5頭を187万ドルで、シンガポールのチョン・セン氏は12頭を146万ドルで買っている。オーストラリア生産馬のマーケティングを扱うオズホースの会長であり、歴史のあるウイデン牧場のオーナーの、アンソニー・スー・トンプソン氏は、「オズホースは、常に積極的にオーストラリアのイヤリングの高い質を広報してバイヤーの幅を広げており、今回はその結果が現れています」と語ってい

る。香港からは、先のジョッキークラブ以外に個人のバイヤーも来ており、マジックミリオンズは、香港からのバイヤーだけで530万ドルも売り上げている。

最初の4日間で、外国人がマジックミリオンズで買った馬の総額は、何と1900万ドルにもものぼるといふのだ。南アフリカから来たバイヤーの一人は、「世界的な経済危機の中で、どのような結果が出るのかとても興味深かった」と語り、今回、初めてマジックミリオンズにやって来たブランドフォードブラッドストックのトム・ゴフス氏も、「過去半年間で北半球における他のセリは、売り上げが50%も下がっているのにも関わらず」と驚きながら、ジェネラルナディウムとモアザンレディの牡馬を購入した。彼はまた、「オーストラリアの競馬界と生産界が、うまくファイナンスのバランスをとって、サステナビリティを持って存在しているかということに衝撃を受けた」とも答えている。

サステナビリティという言葉は、日本語では「持続的発展性」と訳される事が多いのだが、この言葉そのものは環境問題に使われることが多く、「持続的に発展することができる環境の維持」とでも言ったほうがいいのかも知れない。つまり、経済が悪くなった、売り上げが悪くなったからといって、賞金を下げ、その結果馬主がいなくなり、ついには競馬そのものがダメになっていくのは、競馬に関わる人々が、自分が生き残ることばかりを考えて競馬全体のサステナビリティを全く考えていないといえるのだと思う。

続く5日目のセッションにおいて最高価格で落札されたのは、アイルランドをベースにするエージェントが買ったオラトリオの牝馬。ヨーロッパよりずっと安く買えるので、市場の隙を狙っての賢いショッピング。他にも、香港、シンガポール、南アフリカ、マレーシアなど、外国からのバイヤーが目立った。



セレクトセッションでトップバイヤーとなったG・ウォーターハウス調教師

## 今年のパナティックFは量から質へ

昨年マジックミリオンズセールで1900万ドル使ったパティナックファームは、今回は、11頭のイヤリングを187万5000ドルで買って、リーディングバイヤーの5位。セリの後、同グループのレーシングマネージャーが、「我々には既に十分な頭数が揃っており、これからのセリで買うとすれば、いい繁殖になるような牝馬か、将来、我々の牧場の種牡馬にしてもいいような血統のいい牝馬になる」と語っており、これからは、クオンティティ（量）より、クオリティー（質）に変換するという宣言かも知れない。今回のセリでは9頭の牝馬と2頭の牡馬を購入した。ちなみに、彼らが昨年の日本のセリで購入したイヤリングは、既に英国に輸送されて、そのほとんどが、ルカ・クマーニ厩舎に入るのだという。ティンクラ氏は「クマーニ調教師とはメルボルンカップの時に知り合った。気さくで、しかも成功した調教師なので預けることにした」と言っていたが、海外遠征もやはりオーナー探しの一環になるという、ビジネスの成功例である。いずれにしても、アグネスタキオンの牡馬は、英国で活躍して欲しい。それが、日本の生産界の大きなPRになることは間違いない（あっ、私は、日本の生産者団体の人ではなかった！ 余計なお世話かな？）。

## 日本から参加の方々

さて今回は、社台ファームの吉田照哉氏が、奥様の千津さんと一緒に、このマジックミリオンズセールに来られていた。照哉氏は、何と30年前にシドニーに来られて以来のオーストラリアだと言う。オーストラリアでは、ノーザンファームの総帥、吉田勝己氏の活躍が知られているのだが、1月15日の世界の競馬ニュースでは「兄弟が、南北両半球のセリでアクティブだった」と報道されていたので、どうやらこの1月、勝

己氏はケンタッキーのセリに出かけて話題を撒いていたようだ。照哉氏が来られた理由については、マジックミリオンズからの忍耐強い誘いと、オセアニアの競馬人との交流と、オーストラリアの馬やセリの勉強が目的だと語られていた。今回のセリでは、オーストラリアで大活躍のリダウツチョイス牝駒、母

がザビール産駒のG1勝ち馬を落札している。訪豪の目的通り、照哉ご夫妻はマジックミリオンズのセリで様々なファンクションに出席され、オーストラリアやアジアの多くの競馬人との交流を深めていらした。こうして会った人々の中から、何人かの人たちはセレクトセールに出向くことになるであろう。PRとはこのようなことを地道に繰り返して行くものだと思う。しかしながら、今回のセリで私は、照哉氏と、毎年ゴールドコーストにやってきてマジックミリオンズに貢献しているビッグレッドファームの岡田紘和氏以外には、日本の生産界の人々の姿を見かけなかった。

昨年、マジックミリオンズは、アイルランドのゴフスセールと提携をした。お互いのクライアントを紹介しあい、様々な便宜を計らうというものだ。自分のところだけでバイヤーを捕まえるだけでなく、そのバイヤーを紹介してやるというのである。「えっ、そんなことすれば、うちのセリから買わなくなる」などというのは、正に競馬がグローバルになったことを知らないイグノラント（無知な）発言！ 馬を買う人たちは、世界中どこでもいい馬を求めて買いに出かけるものだという事は、これまでの例でも自明の理ではないだろうか。ちなみに、照哉氏は、マジックミリオンズでのホスピタリティがどのように行われているか、非常によく視察され、好きなカメラに収めて歩かれていらした。空いた時間に、あちこちとゴールドコーストをご案内したのだが、遊びながらビジネスをするという、マジック



セール最高価格で落札されたエンコスタデラゴの牡駒(母・Surrealist)

クミリオンズのコンセプトをご理解いただけたのではないだろうか。

今回のセリには、日本、とりわけ関西からオーナーや何人かの調教師の方々が参加されていた。マジックミリオンズセールには20年近く通っているオーナーの難波経雄氏と、奥様でやはり馬主の澄子氏も出かけてこられて、エンコスタデラゴの良血の牝馬を落札された。このセリの出身馬で、澄子氏所有のセトノアンテウスに続きますように。

\*\*\*\*\*

話題は変わって、2008年のワールドランキング馬の統計が出た。馬の走っている国別によるランキングでは、アメリカが82頭で1位、英国が43頭と2位、オーストラリアが36頭で日本の28頭4位を抜いた。更に、生産国別のランキングではアメリカが88頭と圧倒的な差で1位、2位はアイルランドの43頭、3位に37頭でオーストラリアが入っている。南半球という地理的に孤立したオーストラリア。このオーストラリアに長く住み、生産と競馬の歴史を見つめてきた私には、今回のような世界ランキングを見るのは感動に近いものがある。

最後にもうひとつニュース。オーストラリア(2007/08シーズン)の年度代表馬、ウイークエンドハスラーが今年のアジアマイルチャレンジの全てに参戦する予定だという。ご存知のように、これは吉田勝己氏がオーストラリアでの生産に関わった馬。ザッツ・グローバル！ 検疫の問題が解決すれば(祈)、日本に行く可能性が十分あるので、ぜひお楽しみに！

## 筆者●プロフィール



Mariko Hyland ■ 団塊の世代。アナウンサー、コピーライターなどを経る。著書に「オーストラリアとニュージーランドの競馬ガイドブック」など。オーストラリア人の夫、2人の娘とシドニー在住。



マジックミリオンズのオーナーの1人、ジョン・シングルトン氏と談笑する吉田照哉氏



せり場で下見をする吉田夫妻